



松本短期大学 大人の森の健康診断



2021年6月27日

松本短期大学幼児保育学科2年生
一般社団法人塩尻市森林公社



1.学び



松本短期大学幼児保育学科2年生(18名)の皆さんと「大人の森の健康診断」を実施しました。

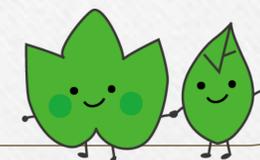


木の葉が揺れ、木の香いが漂う中始まった「森の健康診断」。まずは森の勉強です。公社職員から、木の種類や森のはたらき、人工林間伐の必要性などについて、紙芝居や写真を使って学習します。



2、調査

班ごとに分かれて調査開始。まずは、目を閉じ、耳を澄まして、五感で森を感じます。鳥のさえずりや草木の香り、地面の感触や明るさなど、それぞれに感じたことを発表し合います。



釣り竿を使って木の混み具合を調べます。測り終わったら「早見表」を使って混み具合の診断です。また、木の高さを釣り竿を使って調べます。

3. 体験

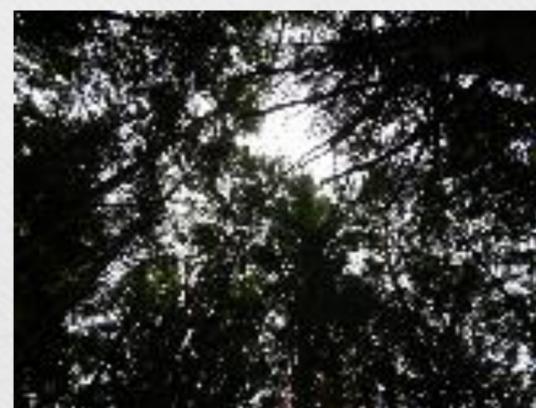
さあ、いよいよ「コギリ」を使って木を伐倒します。木を伐るにはまず、「受け口」と「追い口」を作ります。ふだん使ったことのない「コギリ」に苦戦しながら、一生懸命伐ります。後はみんなで力を合わせ、ロープを引っ張り倒します。



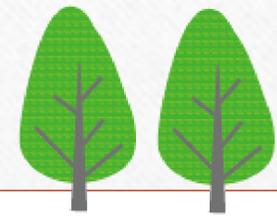
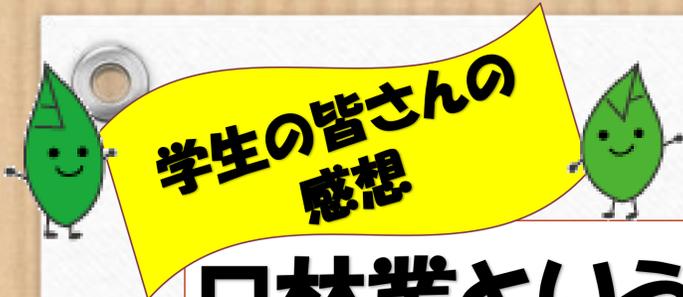
間伐したことで、空が開きます。間伐はとても大事な作業。これで、日光も当たり、草木が生えることで森が健康になります。



Before



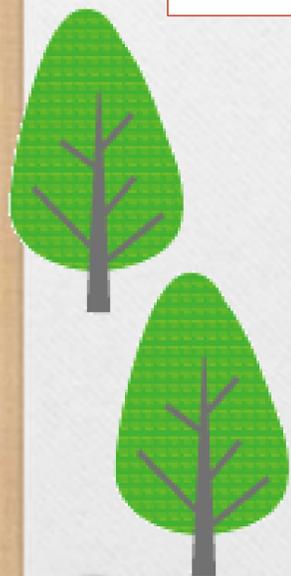
After



□ 林業という仕事がある、と知ることができた。子供たちにも
こういう仕事があることや森の大切さを教えていきたい。

□ 自分で間伐などを体験することで、森の大切さを実感でき
た。

□ 体験で間伐を行ったが楽しかった。仕事として行うのは大変
だと感じた。



森の健康診断を通して、幅広い世代が、山を身近に感じ、山の素晴らしさを知り、山に囲まれているこの塩尻をさらに好きになってもらえたら嬉しいです。言葉で山の魅力を伝えることには、限界があります。山に入り、肌で感じ、体験することで、より深く山のことを学習できると感じています。そして、ここでの体験が記憶の中にとどまり、将来へと引き継がれていくことを願っています。

「山を守り、育て、共に生きる」

私たち塩尻市森林公社は、これからもこの活動を続けていきたいと思ひます。

